

令和6年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	坂下高等学校					
テーマ	正しい防災知識や技能を身に付けて、災害時に適切に行動できる高校生になる。					
目 標	①さまざまな災害を想定した避難や初期対応を体験することで、知識や技能を身に付け、災害時に行動できる力を養う。 ②坂下地区で過去に起きた災害や地域の特徴を学び、防災に関する知識を深める。 ③中津川ハイスクールファイヤーボランティアなどの防災活動やボランティア活動への参加を促し、地域と積極的に関わりをもつ高校生を育てる。					
主な取組	5月 第1回減災力テスト 第1回命を守る訓練 全校生徒が、さまざまな災害を想定した避難の基本行動を学んだ。また、担任と一緒に避難経路や危険のある場所・物を確認したり、全体で学校周辺のハザードマップを確認したりすることで、身のまわりにある危険箇所を確認した。 中津川ハイスクールファイヤーボランティア（NHF）参加者募集 1年生3名、3年生3名が申し込んだ。応急手当講習の受講や防災イベントの運営補助など、年間を通して防災活動に参加した。 9月 第2回命を守る訓練 全校生徒が、火災を想定した避難訓練と煙体験、消防署への通報訓練を行った。また、中津川市消防の指導のもと、水消火器を用いた消火訓練も実施した。 第2回減災力テスト 10月 阿寺断層フィールドワーク 1年生全員を対象に、富山大学都市デザイン学部准教授をお招きして、フィールドワークを行った。学校のある坂下地区を横断する阿寺断層への関心を高めるとともに、地震防災の知識や心構えを学んだ。 11月 咲明日高校マルシェ 1年生が5つの班に分かれて、総合的な探究の時間等で準備をした企画を行った。その中で、1つの班が「楽しく防災について知ろう」をテーマに展示を行った。					
目標に対する 成果	減災力テスト	1年生 2年生 3年生				
		平均点	1回目	49.7点	2回目	52.4点

	減災力テストより Q1. 住んでいる町の地震のゆれの大きさを地図で確かめていますか 第1回：平均 1.5 点／○割合 15% ⇒ 第2回：平均 1.9 点↑／○割合 31% ↑ Q10. 地震の時にどうするか、家族で話し合っていますか 第1回：平均 2.0 点／○割合 24% ⇒ 第2回：平均 2.6 点↑／○割合 46% ↑ Q11. 住んでいる所の水害や土砂災害で危ない場所を地図で確かめていますか 第1回：平均 2.3 点／○割合 32% ⇒ 第2回：平均 2.6 点↑／○割合 46% ↑ Q16. 水害や土砂災害の時にどうするか、家族で話し合っていますか 第1回：平均 1.8 点／○割合 23% ⇒ 第2回：平均 2.4 点↑／○割合 41% ↑ Q17～20. 災害から命を守る近所づきあい（4問平均） 第1回：平均 1.7 点／○割合 23% ⇒ 第2回：平均 1.7 点→／○割合 25% ↑ Q1・10・11・16 の結果より、目標①の「知識や技能を身に付ける」という点に関しては、2回の命を守る訓練を通して成果があった。目標②については、減災力テストの後に実施した「阿寺断層フィールドワーク」等の活動を通して達成できたと考えられる。目標③については、中津川ハイスクールファイヤーボランティアや地域の様々なボランティアへ参加する生徒は昨年より増加した。
目標に対する 今後の課題	・目標①の「災害時に行動できる力を養う」という点は、十分にできなかった。命を守る訓練ではさまざまな災害を想定したが、現実味が少なかった。いざというときに行動できる力を育てられるように、より具体的で実践的な訓練を検討する必要がある。 ・目標③はボランティア活動への参加者は増えたが、全体の意識向上や防災という視点での地域活動はできなかった。減災力テスト Q17～20 の結果からも、生徒の地域防災への意識は高くない。本校は授業の中でも地域と関わる機会が多いが、今後は防災という視点での地域活動を実施できないか考えたい。 ・本校は地元の生徒が少なく、とても広い地域から通学してくるため、坂下地域だけでなく、生徒の居住地域別に危険箇所を確認するなど、生徒一人ひとりに応じた防災意識を高める工夫ができるとよい。
次年度の 取組 （本年度の学びをどのように引き継ぐか、または深めるか）	・阿寺断層フィールドワーク、総合的な探究の時間等での活動の継続 ・より実践的で段階的な「命を守る訓練」の実施 ・総合的な探究の時間（2・3年）での防災ゼミの設置や地域との連携の検討